2013 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント（ＴＡ）・リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	・留学生のサポートを行う TA として採用可能な日本人院生(後期課程)が少ないため内部での確保が困難な状況にある。また、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）と技術スタッフは不要である。 ・従来の「院生研究報告会」(年二回)の実施、『アジア学論集』(第 13 号)の発行に加えてアジア地域研究科発足以来はじめての国際シンポジウム「台頭する中国とアジアの新秩序」を 2013 年 11 月に開催したほか、同 12 月にはインドで本研究科とインドの大学で合同国際会議を行うなど、さまざまな学術交流の推進をはかった。
7-6	年度ごとの自己点検・評価において実施している。教育研究等環境の整備に関する責任主体と組織、権限、手続きは明確である。

【効果が上がっている事項】

7-4	国際交流の推進
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	院生の主体性を高めるため、教員が主体となっている報告会実施や論集編集を院生主体に切り替える作業が必要。
7-6	FD 活動の更なる推進も急務と思われる。その場合、研究科独自のアンケートは、実施時期や設問の見直しも考慮する必要があると思われる。

Ⅲ　本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「台頭する中国とアジアの新秩序」(国際シンポジウムプログラムおよび報告要旨集:別添);インドでの合同会議のプログラム(別添)他

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	①報告会実施や論集編集の院生主体化 ②FD 活動の更なる推進	①2018 年度に報告会と論集編集における院生主体化を実現。 ②アンケートの徹底	→ → →					
14 年度目標	FD 活動の更なる推進	アンケートの徹底(実施や設問の再検討)	→ → →					